

令和8年度 事業計画

在宅支援部
グループホーム ひなぎく

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者一人ひとりが穏やかに健康で過ごしていただくため、その人らしいケアプランの充実と提供を目指す。また利用者との関わりを増やすため、食事等の形態を見直し、日々のレクリエーションや行事の楽しみ方を考えていくなど、利用者とのふれあいを持つよう心掛ける。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域交流や運営推進会議を通じ、外部との関わりを増やしていく。包括支援センターや他事業所との意見交換を密にし、情報共有をすることで他事業所間とのつながりを強化する。実習生やボランティア・認知症マイスター等を受け入れる。

- ・優秀な福祉人材を育成する

施設内外の研修へ可能な限り参加し、情報の収集と更なる資質向上を目指す。日々の介護からの気づきをはじめ、身体拘束と不適切ケアに関する勉強会を施設内で2か月に1度行い、介護の質を向上する。新人職員や外国人実習生の指導などは、全職員で統一した育成をする。

- ・安定した経営を継続する

入院時は医療機関に速やかに情報提供をしていく。当事業所で生活可能な目標を共有し、復帰をスムーズにする。本人・ご家族の意向を、随時確認する。空室管理表を活用し、待機者への連絡や居宅介護支援事業所・包括支援センター等に空き情報を提供することで、新入居の受け入れを円滑に行う。稼働率95%を目指す。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

職員は専門職としての自覚を持ち、職業倫理を身に付ける。事故対応・高齢者虐待の防止・非常災害対策・個人情報の適切な取扱い等のマニュアルの更新をまめに行い、統一した介護・業務を心がける。

令和8年度 事業計画

特別養護老人ホーム のぞみ荘

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

一人ひとりの意思や価値観を尊重し、その人らしい生活を支える質の高いサービスの提供に取り組む。日常のケアにおいては、心身の状態や生活歴を踏まえた個別支援を行い、入所者の声を丁寧にくみ取る姿勢を大切にします。また、家族との信頼関係の構築を重視し、日頃からの情報共有や相談の機会を通じて、入所者・利用者および家族双方が安心して施設生活を送れる環境づくりに努める。

看取り介護については、入所者・利用者および家族の意向を尊重した支援を基本とし、医療機関との連携のもと、最期の時まで安心して穏やかに過ごせるよう、身体的・精神的な支援を行い、寄り添いのある介護を提供していく。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域に根ざした特別養護老人ホームとして、地域福祉の拠点となることを目指し、地域住民や関係機関とのつながりを大切にしながら活動を行う。高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献するため、相談支援や交流の機会を通じて地域課題の把握に努め、サービスの充実と地域全体の福祉向上に取り組む。

- ・優秀な福祉人材を育成する

質の高い介護サービスを安定的に提供するため、職員の専門性の向上と人材育成を重要な柱として位置づけ、計画的な研修の実施や日常業務を通じた指導・支援体制を整え、倫理観と実践力を兼ね備えた優秀な福祉人材の育成に継続的に取り組む。

- ・人が活きる職場環境を整備する

職員一人ひとりが安心して働き続けられる職場環境の整備を重点課題とし、業務の見直しやICTの活用により負担軽減を図るとともに、研修や情報共有を通じて専門性とチーム力の向上に取り組む。また、相談しやすい風土づくりや心身の健康管理を重視し、職員の定着を促進することで、安定した人員体制を確保し、入所者・利用者に対する継続的かつ質の高いサービスを提供する。

特養における ICT：情報通信技術を活用して、介護・運営・記録・連携を効率化し、質を向上させる取り組み。

- ・ 安定した経営を継続する

安定した経営の継続を図るため、入所サービスにおいては目標稼働率 95%以上の維持を目指す。入退所調整の円滑化や関係機関との連携強化により空床期間の短縮に努めるとともに、ショートステイについては目標稼働率 75%を設定し、利用ニーズに応じた柔軟な受入体制を整備する。あわせて、各種加算の算定要件を満たす体制整備と職員研修を進め、積極的な加算取得に取り組むことで、収支の安定化と質の高いサービスの提供の両立を図る。

- ・ 業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

関係法令および各種基準を順守した適正な運営を徹底する。虐待防止および身体拘束ゼロを継続的な目標として職員の意識向上と実践力の強化を図る。あわせて、防災訓練や緊急時対応の見直しを定期的を実施し、入所者・利用者の尊厳と安全を守り安心できる生活環境の整備に努める。

令和8年度 事業計画

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

一人ひとりの思いや考えを大切にし、その人らしい生活を続けていただけるよう、意思を尊重した質の高い介護サービスの提供に取り組む。日々の関わりの中で利用者の声に丁寧に耳を傾け、生活歴や価値観を踏まえた支援を行い、個別ケア計画へ反映させることで、安心して過ごせる生活環境づくりを進める。また、介護・看護・相談員等の多職種が連携し、心身の状態や生活の変化に応じた柔軟な支援を行う。さらに、看取り介護においては、入居者本人および家族の思いを大切にし、医療機関との連携のもと、最期の時まで安心して穏やかに過ごしていただけるよう、身体的・精神的な支援を行い、寄り添いのある介護を提供していく。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域に根ざした地域密着型特別養護老人ホームとして、地域福祉の拠点となることを目指し、地域住民や関係機関とのつながりを大切にしながら活動を行う。高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献するため、運営推進会議や交流の機会を通じて地域課題の把握に努め、サービスの充実と地域全体の福祉向上に取り組む。

- ・優秀な福祉人材を育成する

職員一人ひとりが安心して働き続けられる職場環境の整備を重点課題とし。人材育成と併せて職員の定着を重要な課題として位置づける。計画的な研修やOJTによる支援体制を整えるとともに、働きやすい職場環境づくりに努め、職員が安心して長く働き続けられる体制を構築することで、専門性と実践力を備えた福祉人材の育成と定着を図る。

OJT：日常業務を通じて現場で実践的に行う職員教育

- ・人が活きる職場環境を整備する

職員一人ひとりが安心して働き続けられる職場環境の整備を重点課題とします。業務の見直しやICTの活用により負担軽減を図るとともに、研修や情報共有を通じて専門性とチーム力の向上に取り組めます。また、相談しやすい風土づくりや心身の健康管理を重視し、働きがいのある職場づくりを推進します。安定した職員体制を確保することで、利用者に対する継続的で質の高いサービス提供につなげていきます。

特養における ICT：情報通信技術を活用して、介護・運営・記録・連携を効率化し、質を向上させる取り組み

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

安定した経営の継続を図るため、入所サービスにおいて目標稼働率 95%以上の維持を目指す。入退所調整の円滑化や関係機関との連携強化により空床期間の短縮に努める。各種加算の算定要件を満たす体制整備と職員研修を進め、積極的な加算取得に取り組むことで、収支の安定化と質の高いサービスの提供の両立を図る。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

関係法令および各種基準を順守した適正な運営を徹底する。虐待防止および身体拘束ゼロを継続的な目標として職員の意識向上と実践力の強化を図る。あわせて、防災訓練や緊急時対応の見直しを定期的を実施し、入居者の尊厳と安全を守り安心できる生活環境の整備に努める。

令和 8 年度 事業計画

在宅支援部
ケアハウス オパール

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

心身の状態低下を防ぐことを目的として、入居者の自主性を尊重しながら随時介入をおこなう。具体的には月 1 回おこなうお茶会を周知徹底・充実させることにより入居者の参加人数増加を目指す。食事時の声掛けにより、入居者の状況把握に務める。

- ・人が活きる職場環境を整備する

ケアハウスの年間業務内容を把握し、着実に実施する。処遇対応や医療関連の研修に重点的に参加する。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

法令に規定されている研修参加・委員会活動・書類作成・避難訓練等の実施を徹底する。

令和8年度 事業計画

在宅支援部
デイサービスセンター オパール

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

在宅生活継続を支援するデイサービスの役割を前提に、介護計画書に基づき、身体機能、認知機能維持に向けて、リハビリ機器をはじめ、様々なコンテンツを有効に活用し、更なる質の向上を図る。

週1回のミーティングを通して、日頃の業務の振り返り、業務改善を行なう。

利用者の傍に寄り添い、積極的な関わりの中で安心感を提供する。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

実習生やボランティアの受け入れを交流の機会とする。職員にとっては、指導する立場から得られる気づきの習得の機会として活用する。地域交流につながる活動計画を実施し、利用者の社会参加を促す。

- ・優秀な福祉人材を育成する

定期的に法人内外の研修に参加する。研修機会を増やし専門性の向上につなげ、職員の力が発揮できる職場づくりをめざす。

- ・安定した経営を継続する

地域のケアマネジャーや関連事業所への訪問やFAX等による定期的な情報交流により、利用者増につなげる。

関係機関との連携強化と継続的な質の向上の取り組みで、平均稼働率60%以上を目指す。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

ヒヤリハット等を活用し、事故の減少対策を継続する。不適切ケアをなくす取り組み、適切な記録を行うなど法令等遵守の徹底を図る。

令和8年度 事業計画

在宅支援部
オパール居宅介護支援事業所

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

アセスメントシート、モニタリングシートを変更し、医療情報、ACP（人生会議）、災害等支援も追加項目としてシートに落とし込んでいく。何につなげていく情報なのか、アセスメントの意味を理解し深めていく。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

法人内の事業所と連携して地元町内会との交流を構築する。

- ・人が活きる職場環境を整備する

多方面の知識を習得するため研修、勉強会の年間計画を立て、参加後は事業所内で情報共有し、利用者、家族の支援、業務改善に繋げていく。心身ともに健康で働ける環境のため、コミュニケーションを円滑にはかり、有給取得でリフレッシュをする。

- ・安定した経営を継続する。

介護予防は地域ケア推進室からのメール連絡を活用し新規受け入れに対応していく。算定可能な加算は法令を遵守し積極的に加算取得を目指す。

令和8年度 事業計画

在宅支援部
福田高齢者支援サブセンター

- ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

倉敷市内でも複合的問題を抱える事例が増えている。高齢者支援サブセンターも高齢者に対しての支援だけでなく、医療や他の専門職との連携を取り支援にあたる。他職種とも連携をとれるよう気軽に話をする機会を持ち、情報や知識を増やせるよう外部研修にも参加する。

- ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

倉敷市全体の高齢者支援センターや特に水島地区の他の支援センターと連携を取りながら、移動相談会や地域の活動への参加により地域の把握や高齢者支援サブセンターの事業紹介を続け、地域の方との顔の見える関係作りをすることで地域の福祉ニーズの状況を把握する。